

2013 アフリカプロジェクトツアー無事帰国



シンギランドセカンダリースクール建設現場にて(タンザニアのブル)

アフリカプロジェクトツアーを実施して

2013年7月5日(金)～7月15日(月)

WRJ代表理事 加藤 典宇暉

今回、初めてグローバルパートナーズ(GP)※1と合同ではなく、WRJ単独でのツアーを実施出来た事は大きな収穫でした。勿論現地パートナーWRT※2の、スーレーの協力があったの賜物であることに疑い余地はありません。

このアフリカプロジェクトは、WRI※3のリサ・ラフナー、テッド・ラフナー、ドクター・ベリー、ピーター・ブラウンによって1989年3月予備のツアーが実施され、「走ることを通して、慢性的な飢餓と戦う現地の人々を直接力付ける」事を目的に創作されました。1989年8月モスクワピースマラソンで「次に走るのは、アフリカか、シベリヤだよ」と聞きWRJは、アフリカを選択し1990年3月、第1回アフリカプロジェクトにチームを送ったのがスタートです。以来2006、2009、2011、2012年の4回を除き毎年現地にチームを送り日本から延べ162人の普通の人々が参加しアフリカを自分の人生に関連付けて下さっています。

現地訪問ツアーに関しては、2月にGP単独で、夏WRJとGP合同で実施。長期の休暇が取りにくい日本としては、ケニア、タンザニアを、GPのメンバーはこれにウガンダを加えた長期日程を組んでいました。そういった背景の中で現地の宿泊と移動訪問についてのアレンジもGPに任せて来ましたが、今回、ハイシーズンを外し、日本独自のツアーの可能性を探る意味もあり、タンザニアのスーレーと細部を詰めて実施にこぎつけました。

今回の大きな目的だった、WRTのスーレーはじめ現地プロジェクトのリーダーたちとWRJの新しいメンバーとを引き合わせ人間関係を創ること、ブルのシンギランドセカンダリースクール建設プロジェクトの進捗について完了に向けた新しい約束を明確にすること、アフリカに深く触れるまたとない機会として楽しんでもらうことに関して、充分達成を手にして帰ることが出来たと評価しています。

今後、現地とのコミュニケーションをより密にしてゆくことと、訪問した支援先プロジェクトからの新たなリクエストに関し、優先順位を検討し正式なプロポーザルの提出を促すと共に、WRJアフリカプロジェクトファンドレイズ体制の再構築が必要となっています。

WRJにとってアフリカプロジェクトは、そのビジョンを実現するための大きな源泉の一つです。今回のツアーを通し、アフリカの人々がいてくれてWRJの活動が続けてこれたのだということを改めて実感しています。

※1: WRIが発展的に、「走ることにフォーカスする人々」と「開発支援によりフォーカスする人々」のグループに分かれ現在、WRUSとグローバルパートナーズという二つの組織となっており、WRJは両組織とも良好な関係にある。

※2: WRT(ワールドランナーズ・タンザニア)

※3: WRI(ワールドランナーズ・インターナショナル)

初めてのタンザニア、ケニアへ

WRJ 事務局長 矢崎 芽生

本当に行ってきたんだ……。1か月ほど経ちましたが、そんな何とも言えない気持ちになります。

2008 年、加藤代表が前回アフリカの地を訪問した時、私は 10 月開催のチャリティーランのコアボランティア（通称コアボラ）をしていました。まさか、代表の次の訪問の時に私が一緒にアフリカにいるとは……。不思議な縁に驚いています。

コアボラは私が WRJ とのきっかけを作ってくれたボランティア活動でした。何か大きなイベント運営に関わりたいたい、特段ランニングの大会だからという想いもなく参加しただけでしたが、この活動が面白い、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと強く思うようになりました。そのころ WRJ の中でアフリカへの支援活動が少し停滞していたこと、またイベントなどでも WRJ の国際協力活動があまりクローズアップされていないことも気になり、そこを何とかしなければ！と勝手に使命感を感じていました。とはいえ、実際に支援地を訪問したことがないことは、伝えるにも説得力が欠けていると感じていたところ、タンザニアに行くチャンスが浮上し、何も迷わず「行く！」と決めていました。

アフリカは想像通りのところもあれば、驚くところもありました。十分事前に聞いていましたが、その気候。現地の方が、モコモコのエスキモーのような服を着ていたのにはかなり驚きました。また、車の多さ。東南アジアの途上国でも最近その増加ぶりが目立つと感じていましたが、タンザニアでもその傾向が強いようですし、ケニアのナイロビではひどい交通渋滞があり、インフラが追い付いていない、また排気ガスなどによる環境問題はどうか少し気になりました。

英語には全く自信がなく、どうコミュニケーションを取ればと心配でしたが、歌とダンスがその心配を払拭してくれました。歌もダンスも好きなので歓迎のセレモニーで勝手に一緒になって歌ったり、踊ったりしていたら現地の方々に親近感を持ってもらえたのは、もっともうれしい出来事でした。

また、ナイロビにスラムで出会った女の子は忘れられない一人です。デジタルカメラで撮ってすぐ見せると子どもたちは大はしゃぎ。さらに動画も撮ったら、大興奮でした。その女の子はずっと私にくっついて離れず、その無邪気な姿に、ナイロビの治安の悪さを忘れさせてくれるようでした。子どもたちの笑顔は何物にも代えがたいです。

WRJ がかつて支援してきた学校や村、そしていま建設中の学校を訪問し、WRJ の歴史の長さ、現地の方々とのつながりを知ることができました。現地に訪問できることもがんばっても年 1 回程度、そんな環境ですが、WRJ がたくさんの人々の関わりの中で、そのユニークな活動を続けていけることは大事だと思っています。

今回の経験をもとに、さらに WRJ の広報活動、ファンドレイジング活動にかかわっていきたいと思っています。そして、またタンザニア、ケニアに行ってくださいと思います。



タランギレ ナショナルパーク



レンギジャベのマサイの女性と



ブムワニの少女と



ブムワニのママ マジワと

アフリカプロジェクトツアーに参加して

WRJ 理事 金子 良太

今回、初めてアフリカプロジェクトツアーに参加し、WRJ 代表の加藤さん、事務局長の矢崎さんと共に、WRJ が支援しているタンザニア、ケニアの様々なプロジェクトサイトを訪問し、現地の人達と交流してきました。

タンザニアでは、アルーシャやブルという地方の町で、WRJ が教室建設等を支援した複数の小学校や現在建設中の中学校を見学、また女性の自立支援を目指し運営されているチーズ工場や、環境保護と若者の雇用創出を目指す養蜂プロジェクトの現場等を訪れました。小学校では日曜日にも拘わらず生徒さんが歌や踊りで出迎えてくれ、中学校の建設現場ではコミュニティーの人達が沢山集まって状況を説明してくれる等、行く先々で歓迎を受け、WRJ のこれまでの支援が形となり、現地の人達に喜ばれ役立っていることが良く判りました。一方で、資金面で課題を抱えるプロジェクトや、当初の計画より進行が遅れているプロジェクトもあります。現地の人達からは引き続き WRJ のサポートに期待する声が多く聞かれました。

ケニアでは、ナイロビのスラムの子供達への給食プロジェクトを見学しました。WRJ は、このプロジェクトでは、週末の 2 日間(土曜日、日曜日)の給食支援を行っています。厳しい環境にも拘わらず、笑顔で私達の周りに集まり話しかけてきたり、デジカメを興味深く覗きこむ子供達の無邪気な姿が大変印象に残っています。尚、このプロジェクトに永年関わっている現地の人によると、平日の給食の支援を行ってきた別の団体からの支援が打ち切られるとのことで、WRJ に対し一層の支援の要望がありました。

今回のアフリカ訪問で、WRJ が係る様々なプロジェクトの現状を見ることができ、またプロジェクトに関係している現地の人達と情報や意見交換も行えたことは、大変貴重な経験となりました。今後、私なりにこの経験を WRJ の活動に活かしていきたいと考えています。

最後になりましたが、訪問に際し支援やアドバイスを下さった方々や、ツアー期間中に大変お世話になった加藤さん、矢崎さんに改めてお礼申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。



WRT 代表 スーレーと

タンザニア、ケニアの プロジェクトサイト訪問 (報告)

(2013年7月7日～7月13日) WRJ 理事金子 良太

【タンザニア、アルーシャ近郊】

1. Ngiresi フライマリースクール

- (1)アルーシャ郊外、山の中腹の農村地帯にある小学校。
- (2)WRJ が教室建設のため 1,956,970 円をサポートした (1995 年～1997 年)。また、2 教師の住居建設もサポートした(2005 年)。
- (3)現在の生徒数、約 1,300 人。教師の住居は、学校の側にあり 2 教師の家族が居住する。
- (4)この地区の女性によるミルクプロジェクト(女性が牛を飼いミルクを販売する)への支援につき要望あり。
- (5)他に要望は、電気を引きたい (コンピュータのクラスのため)、先生の宿舍がもっと欲しい、スタッフのトイレ、安全のため学校の周りに柵を作りたい、学校のための移送手段が欲しい。他の地域へも行けるし、病気の人を病院へ送ることも可能となるため。



ンギレン村の女性リーダー

2. Mringa フライマリースクール

- (1)WRJ が教室建設と補修のため 1,420,000 円をサポート (1997 年～1999 年)。また、校長室、職員室の補修のため 486,030 円をサポート (2000 年)。
- (2)現在の生徒数、約 1,300 人。1 学年 2 クラス、1 クラスの生徒数は約 80 人。
- (3)就学前の子供のため、1 教室の建設を希望 (幼稚園に相当するもの)。



金子さんの話を聞く生徒達
ムリンガプライマリースクールにて

3. Lengijave 村のプライマリースクール

- (1)マサイの村の小学校。WRJ が教室建設のため、1,550,000 円をサポート(1996 年～1998 年)。また、教職員住居の建設をサポート(2004 年)。
- (2)WRJ が支援した教室の一部は、大雨の影響で土砂が流入し利用できない状態。建物を取り壊し新たに建てる予定。
- (3)現在、教職員の住居が 15 足りない。
- (4)この 2 年間、小学校から中学校に進級するための試験の合格率は 40%～50%となっている。 中学校に行く生徒のため、中学校の教室も必要となっている。

尚、Lengijave 村に対しては、水源開発、パイプライン敷設費用として、WRJ は 1,532,500 円をサポート(1993 年～1995 年)。これにより、近郊の山から水をパイプラインで運ぶことができ、村の人々の生活に大変役立っているとのこと。



レンギジャベの校舎



歓迎の踊りレンギジャベ村

4. Kijimo チーズプロダクション

- (1)女性のみによるチーズ製造プロジェクト。メンバーは約 50 人。WRJ はチーズ工場建設のため 730,000 円をサポート(1998 年～1999 年)。
- (2)製造したチーズはホテルや空港内の店にて販売されている。
- (3)現在の経営状態は、芳しくない。アリューシャ近郊の牛は、乳の出る量が少なく、チーズが十分に作れない。
- (4)乳をよく出す牛(例：ホルスタイン種)を買い、メンバーで飼育することによりチーズの生産量を増やしたいが、牛を購入する資金がない。できれば支援してほしい。タンザニアにおいても、人工授精により牛の系統を維持することは可能とのこと。

Kijimo プロダクションに対し、WRJ は養鶏プロジェクトとして 400,000 円を支援したが(2000 年)、鳥インフルエンザの影響もあり上手くいかず、事業から撤退している。



キジモのチーズ



養蜂プロジェクト (タンザニア)

【タンザニア、フル地域】

1. 養蜂プロジェクト

スーレーは、来年開催予定の Green Climate マラソンを通じ、環境保護の重要性を訴え、また若者の雇用の機会を創出することを目指している。その一つの方法が養蜂プロジェクトであり、そのプロジェクトサイトを訪問したもの。

- (1) 養蜂プロジェクトに参加している人々、数名と面談。
- (2) 地方政府からアカシアの木が植わっている広い土地を借り、養蜂を行う計画。土地の周りはフェンスで囲み、アカシアの木以外に花も植え、蜂をよび寄せる。
- (3) 蜂の巣箱には、丸太を使う伝統的な手法ではなく、箱を使う現代的手法を用いる。蜂蜜は年 3 回収穫予定。
- (4) 課題は、資金の調達と、養蜂の技術を学ぶこと。技術習得のため、同様のプロジェクトを行っている他の地区へ学習に行っている。
- (5) 養蜂を既に行っているプロジェクトを見学
- ① ブルの郊外の、年配者グループによる養蜂プロジェクトを見学。
- ② グループは 15 名(男性 9 名、女性 6 名)。昨年 11 月にプロジェクトをスタート。プロジェクトのメンバーは、コミュニティにより選出された人。所得の少ない人、働くことができる人、等が選出基準である。週 2 回～3 回、現場に来て働いている。
- ③ まだ生産には至っていないが、今年 5 月～7 月に蜂が集まってきており、近々蜂蜜を生産できる見込み。

2. Singiland セカンダリースクールの建設

WRJ は、2 教室建設のため今年 2 月に 1,997,180 円を送金。建設現場を見学し、現地の関係者からヒアリングした。

- (1) セカンダリースクールの建設は 2009 年からスタート。1 つ目の校舎は 2013 年 2 月に完成した。(2 教室と 1 教職員室)。



現在移転交渉中の校長宿舎建設予定地の農家

(2) 現在、2 つ目の校舎を建設中(2 教室分)。建物部分はコミュニティが資金を出し、屋根は地方政府からの資金で作っている。資金は既に受け取っている。8 月に完成予定。

(3) WRJ からの資金(上記の約 2 百万円)で、別の 2 教室を作る予定(3 つ目の校舎)。その校舎には校長室も作る計画。いずれも 11 月に完成予定。

(4) 一方、政府から新学校が許可され、生徒を受け入れるには、次の 4 つの条件を満たす必要がある。

① 4 教室を作ること

これについては、2 教室は建設済(上記(1))。残りの 2 教室は 8 月に完成予定(上記(2))。

② 校長の宿舎を作ること

校舎の近くに建設する予定。費用は 1,569,000 円で、内 1,207,000 円は地方政府から調達、362,000 円は 1 家族約 600 円を目途にコミュニティから集める計画。建設業者、設計者は決まっている。8 月 1 日から建設を開始し、11 月に完成する予定。

③ 6 つのトイレ(男子用 3、女子用 3)を作ること

トイレの場所は決まっている。建設費は 663,850 円で、内 63,500 円は、今回面談した国会議員 Akunaay 氏による議員予算からの拠出、600,350 円はコミュニティから集める計画。コミュニティによる資金は 5 月～10 月に集める予定であるが、農作物の収穫状況にも左右される。

④ 教職員オフィスを 2 つ作ること

1 教室は教師用として建設済(上記(1))。2 つ目は校長室として 11 月までに作る予定(上記(3))。

(5) 上記(4)の 4 条件が満たされれば、教育省に申請を出す予定(12 月)。その後、検査員が現地を確認し、OK であれば 2～3 週間内に許可がおりる。スケジュール通りに進めば、来年 1 月の生徒受入れに間に合う。一方、建設期限(11 月)を含め、かなりタイトなスケジュールであることも事実である。

(6) まずは、上記の計画を進行させ 2014 年開校することが重要である。その後、当中学校は、8 教室を保有することを目指す。6 教室は上記の通り今年 11 月までに完成。その後、1 年をかけて 2 教室を作り 2015 年 1 月 15 日前後の新入生受入れに間に合わせたい。尚、理科実験室は計画には入っているが、許可を得るための条件ではない。

(7) 現在、この地区には 2 つのプライマリースクールがある。その卒業生が現在ある 1 つのセカンダリースクールに通うためには、多くの生徒(約 160 人)が片道 8 km～9 km を通学することになる。かなり遠距離であり、このためにも新たに Singiland セカンダリースクールを早く完成させたい。

(8) WRJ に、今後の本プロジェクトの進行状況を随時報告していきたい。

※予算に関しては、1 円 16.57 タンザニアシリング換算

【ケニア、ナイロビ】

キコンバースラム フムワニ給食プロジェクト

- (1)WRJ が、「アフリカと神戸俊平友の会」を通して週末(土曜日、日曜日)にスラムの子供達に昼食を提供しているプロジェクト(毎年 15 万円をサポート)。神戸俊平先生の案内で現地を見学。
- (2)給食の対象者は、5 歳～14 歳を中心とした約 40 名。給食を作っているママ マジワ(ミルクおばさんという意味)は、13 年以上、平日休日の別なく子ども達の食事を作り続けている。
- (3)グローバルパートナーズ(これまで、平日(月曜日～金曜日)の給食活動をサポートしていた)の支援が途絶え、現状、平日の給食活動を支援する団体がない。
- (4)「子供達のため、出来れば WRJ が平日の給食活動もサポートしてほしい」と、ママ マジワから強い依頼があった。平日、週末の双方をサポートする場合、食料(米、豆、肉等)、油、洗剤、炭などを買う資金で、約 45 万円が必要となる模様。
- (5)近くのモスクが改築工事中のため、これまで給食活動を行っていた診療所が祈りの場所となっており、給食は外で行っている(衛生的に良くない状況)。ママ マジワは、モスクが完成したら診療所の建物を孤児院として利用したい、という願いをもっている。



ブムワニの子ども達



サッカーをする少年達 (タンザニア)

【その他】(スーレーからヒアリングした内容)

1. タンザニアの学校システムについて

- (1)小学校は 1 年生～7 年生まで。小学校には、ナーサリースクール(幼稚園)が付属している場合がある。小学 7 年生までが義務教育。
- (2)中学校は、Lower ミドルスクール(4 年)と Upper ミドルスクール(2 年)に分かれる。
- (3)小学 7 年生のとき、全国テストがあり、合格者だけが Lower ミドルスクールに進める。
テストは 5 科目。各科目 50 点満点で、合計 250 点満点。合計点 100 点以上が合格者として Lower ミドルスクールに進学できる。進学率(全国)平均は約 65%。一回限りのテストであり、不合格者は義務教育だけで終了し、働くことになる(家の農業を手伝う等)。
- (4)また、Lower ミドルスクールの 2 年目にも全国テスト(複数回受験可能)、4 年目にも全国テスト(受験は 1 回限り)があり、4 年目のテストの合格者が Upper ミドルスクールに進学できる。
- (5)大学への進学率は約 8%。私立大学もあるが、非常に学費が高い。
- (6)大学生に人気のある職業は、教師、弁護士、医師等。

2. Green Climate マラソンについて

- (1)来年 6 月第一週の開催を計画中。フル、10k、5k(ファミリーラン)の 3 種目。参加者は、3 種目合計で 800 人～1,000 人を集めたい。
- (2)単なるマラソンではなく、環境保護の重要性を伝える大会にしたい。マラソン大会は、このような啓蒙活動を行う良い機会である。
- (3)具体的には、
 - ①国連は、カーボンクレジットを奨励していること
 - ②航空会社は、環境ファンドをもっており活用を考えていることこれらのことなどを人々に伝え、環境保護のための手法の紹介や活動を促すこと。実施することにより達成する目標は、数値的なものではなく、概念的で判りにくいかもしれないが、マラソンを通し環境保護の重要性を伝えること、また若者による環境保護活動の普及が目的である。
- (4)政府の役人や、他の NGO(例：ガン撲滅を目的に活動している団体)にも参加を依頼する。また、企業の CEO 等にも参加を呼び掛けたい(企業名を付けた T シャツを着て走ってもらう)。
- (5)エントリーフィーは取らない。賞金を出す。この方法でないと、ランナーが集まらない。
- (6)このために、スポンサーを探している。現在、可能性があるのは 1 社(セメント会社)。
- (7)実施のための委員会メンバーは選出済。各メンバーはそれぞれの仕事があり、遠方に住んでいる人もいるので、準備は容易ではないが、実現させたい。
- (8)尚、Green Climate マラソンの普及を目的に今年、4 回のマラソン大会を開催する予定であったが、実施したのは 2 回のみ。各回の参加者は 50 人程度。準備不足もあり、あまり上手くいかなかった。
- (9)解決すべき課題はあるが、来年の 6 月に向けて準備を進めたい。

3. 「将来、若手ランナーを日本で活躍させたい」 というスーレーの希望について

- (1)ブル(スーレーの故郷)では、現在 10 名のランナーがコーチの指導を受けトレーニング中(中距離～長距離)。
- (2)将来、高い成績を出すトップレベルのランナーが生まれれば、日本の大会(例えば、東京マラソン、青梅マラソン)に参加させたい。そこで良い成績を残せたら、実業団に入るチャンスが生まれるだろう。
- (3)その際、WRJ には選手のエージェントとして企業と交渉する等の役割を期待したい。上手くいけば、WRJ にもエージェント料として収入が入るだろう。(スーレーさんによれば、ケニアのワキウリ選手はケニア人ランナーのエージェントとして活動している、とのこと)
- (4)また、WRJ と協力して日本の大会にトップランナーを推薦し、参加させることも考えられる。
- (5)トップランナーとなれば参加料がもらえ、良い成績を残せば賞金を得られる。この一部は、母国の若手ランナーをサポートすることに使われるだろう。
- (6)タンザニアには国が選手を育成するシステムが無く、プライベートベースで選手をサポートしているのが現状。良い成績を残せば、警察や軍への就職のチャンスもあり、選手は頑張っている。

上記案に対し、金子から

- ・日本の実業団は、会社の業績次第でクラブの活動や支援を打ち切る場合がある。
- ・WRJ は人的、組織面等で、東京マラソンや青梅マラソンとコネクションは無い。またエージェントとして活動したことは無い等を伝え、今後話し合っていく事項とした。

4. John Stephen さんについて

- (1)メキシコオリンピックのマラソンで、転倒し足に怪我をしながらもゴールし喝采を浴びたタンザニアの偉大なランナーである。
- (2)その後、シドニー、北京オリンピックにも招待され、オリンピックに関する啓蒙活動や講演を行っている。
- (3)今回、スーレーさんの紹介により、ブルで面談する。上記 3 の若手ランナーの育成にも関わっている人。



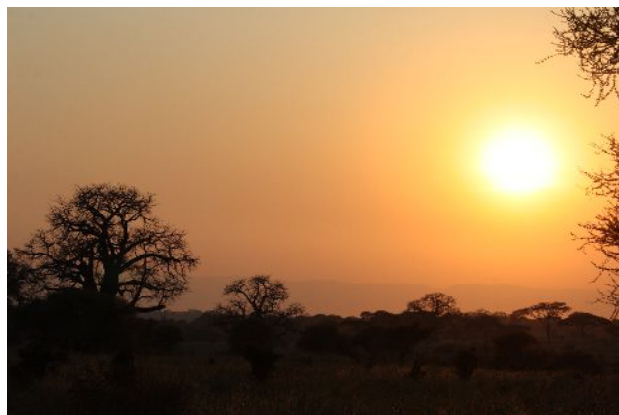
John Stephen さんと



タランゲリナショナルパーク



タランゲリナショナルパーク



タランゲリナショナルパーク



“嬉しい話” 訪問先プロジェクトに張ってあった代表の年賀状

河口湖で優勝したアンドレア・マオ駆けつけてくれる

WRJ 代表理事 加藤 典宇暉

1993 年、WRJ の招待でコーチである WRT のスーレーと来日。河口湖マラソンに参加し見事優勝、WRJ のメンバーを歓喜の垣根に投げ込んだアンドレア・マオ。スーレーと共に我が家に 10 日ほど滞在した。

前回 5 年前にはバイクの事故で入院中のため会えず。今回は、忙しい業務をやりくりし 90 km 以上はなれた町から私に会いに駆けつけてくれた。約 20 年ぶりの再会、現在は医師として働いているとの事。

息子さんは、ダルエスサラームの大学でインフォメーションテクノロジーの勉強、お嬢さんは同じく医師になるための勉強をしているとの事。柏コーチはじめ WRJ の皆さんに宜しくとのことでした。

佐藤 透 (さとう とおる)

コア・ガラスの世界 展

2013 年 7 月 20 日【土】～12 月 1 日【日】

於：北澤美術館 長野県諏訪市湖岸通り 1-13-20

WRJ 監事の佐藤透が上記の通り、近作 60 点を展示しています。モスクワピースマラソン、WRJ 立ち上げ、第 1 回アフリカプロジェクト、山中湖 SCR と共に歩んだ彼の作品を通し、その繊細な世界に触れてみて下さい。(noriuki)

笑いの日本文化

「烏滸の者」はどこに消えたのか？

東海大学出版会発売 ￥2,000

WRJ 元副代表の樋口和憲(ひぐち かずのり)さんが、上記の通り新著を発表されました。是非ご購入下さい。

近代合理主義が何を不用としてきたのか。そうした中で、「神に笑いをささげる者として」烏滸の者はどの様に姿をかえていったのか・・・柳田国男の学問への態度に関する著者の解釈は秀一。(noriuki)

定期ランのご案内

WRJ では、ランナー同士の交流の場として、毎月第二日曜日に定期ランを開催しています。場所は主に皇居周回ランニングコース(1周 5km)で、竹橋をスタートして反時計回りに走ります。15:40 頃から銅像前をスタートして 17:00 までの間に走力に合わせて 1～3 周を走ります。1 周目はグループ走、2 周目以降は自由走です。18:00 から懇親会を開催しています。(主に「白木屋」・神田西口駅前店：03-3251-9288、20:00 終了)これから走ろう、久しぶりに走ろう、古い建物を見ながら東京の真ん中を走ってみたいと思っている人、一度参加してみませんか？

○定期ラン連絡用アドレス teiki-run@wrj.jp
(定期ランマネージャー佐藤、和田、鈴木理事に届きます)
※連絡が取れない場合は WRJ 事務局まで

(044-949-1068 加藤方)

◎ 次回：9 月 8 日(日) 皇居周回コース(第 232 回)
集合：14:40 神田駅北口改札(銭湯で着替え)
15:30 竹橋和気清麻呂銅像前

不定期ランについて

いつもと違うところを走ろう！と今回は東京オリンピック(1964 年開催)のマラソンコースの復路を走ります。8 月 25 日(日)に行きます。詳しくは定期ラン連絡用アドレスへ

WRT 代表スーレーの貢献

WRJ 代表理事 加藤 典宇暉

スーレーは、タンザニア北部の観光都市アリユシャ市教育委員会の職員です。来年 60 歳、デンマークへの留学経験もあるジョークの大好きなインテリジェンスのある男です。

アフリカプロジェクトを語る時、現地コーディネーターとしてのスーレーの貢献を抜きに語る事は出来ません。予定した日に予定した場所でプロジェクトの責任者や関係者と会い、訪問の目的をかなえるためにたくさんの人と会話をし、多くの時間と労力をさいてくれています。

毎回、私たちがタンザニア滞在中は、休暇を取り私たちと行動を共にしてくれます。スワヒリ⇄英語へのトランスレーションを含め、現地の人々とのコミュニケーションにも欠かせない存在です。5 年ぶり 16 回目のアフリカ訪問でしたが、改めて、スーレーの貢献と友情を承認させていただきます。



左から スーレー 加藤代表 マオ

株式会社リコーより

アフリカ渡航費補助！！

株式会社リコーの社会貢献クラブ・FreeWill 様から、今回のアフリカプロジェクトの渡航費に対して 30 万円の貢献がありました。7 月 18 日の運営委員会で、リコーの小沼美由紀様から目録を贈呈されました。ありがとうございました。

WRJ 総会のお知らせ

ワールドランナーズ。ジャパン(WRJ)の通常総会が行われます。今回 5 年ぶりにアフリカを訪問した加藤代表。一年間の活動を振り返り、これからの WRJ を創作したいと思います。

日時：2013 年 9 月 7 日(土) 16:00～17:00

場所：WRJ 事務所(稲田堤)

編集後記 (佐藤 高正)

ケニアからタンザニアへの道は整備され、アルーシャの街には多くの自動車が走っていると聞きました。私が見た風景とは違っている様子ですが、訪問先で温かく歓迎してくれるのは同じなのかなと思うと嬉しいですね。これから、どのようなサポートが可能なのか？地道に歩んでいきたいです。

